



kono shunkan wo issho ni wara ou

6-dim+ ロクディム 活動資料

学校など教育現場の
コミュニケーション教育・芸術表現として
ロクディムの学校公演やワークショップ（インプロ）が
取り入れられた理由





ロクディム（6-dim+）とは？

ロクディムは、脚本や台本を使用せずその場で即興で芝居をする「即興芝居 × 即興コメディ」の公演やワークショップを日本全国で行っている即興パフォーマンス集団です。「この瞬間を一緒に笑おう」合言葉に、小中高等学校や大学など教育機関で「学校公演」や「特別授業・ワークショップ」を実施しています。

※これまでの活動履歴は別資料「ロクディム活動履歴」をご覧ください

ロクディムが行うワークショップや公演とは？

ロクディムの演劇的ワークショップは、コミュニケーションを中心とした協働・共創を促進するためにプログラムされており、楽しみながらコミュニケーションについて改めて考える機会を体験的に提供します。

ロクディムの学校公演は、一般的な演劇だと「見るだけ」になってしまうところを、生徒たちが「自然と参加してしまう」体験型の上演形式となっており、多くの笑顔や感動を届けています。

- ・学校などの教育機関に演劇的ワークショップや学校公演を提供している。（これまで100件以上）
- ・演劇的ワークショップは、自己表現・自己肯定感、他者受容やより良い関わりなどを促進するよう設計されている。
- ・ロクディムの学校公演は、「参加型・体験型」の上演形式になっており、観客（生徒たち）が「楽しみながらコミュニケーションについて改めて考える」機会を提供している。

学校などの教育現場で必要とされるコミュニケーション教育、創造性とは？

なぜ今「コミュニケーション能力・教育」が必要なのか？

文部科学省は平成 22 年「コミュニケーション教育推進会議」を設置しました。

国際化の進展に伴い、多様な価値観を持つ人々と協力、協働しながら社会に貢献することができる創造性豊かな人材を育成することが重要です。また、近年、子どもたちが自分の感情や思いをうまく表現することができず、容易にキレルなどの課題が指摘されています。

このような状況を踏まえ、子どもたちのコミュニケーション能力の育成（以下、コミュニケーション教育）を図るための具体的な方策や普及のあり方について調査・検討を行うため、「コミュニケーション教育推進会議」（以下「推進会議」という）を設置します。

—文部科学省 Web サイト「コミュニケーション教育推進会議」の開催について より—

この推進会議で作成された報告書「(概要) 子どものたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～の審議経過報告のとりまとめ」の中に「1. コミュニケーション能力が求められる背景」の記載があります。

- 正解のない課題、経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代。
- 外での遊びや自然体験等の機会の減少により、身体性や身体感覚が乏しくなっていることが、他者との関係づくりに負の影響を及ぼしている。
- コミュニケーション能力を、「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ合意形成・課題解決する能力」と捉え、多文化共生時代の21世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要。

- [1] 自分とは異なる他者を認識し、理解すること
 - [2] 他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること
 - [3] 集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと
 - [4] 対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと
- などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある

—文部科学省 Web サイト「(概要) 子どものたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～の審議経過報告のとりまとめ」より—

【演劇】学校など教育現場のコミュニケーション教育・芸術表現としてロクディムの学校公演やワークショップ（インプロ）が取り入れられた理由

では、そのために何をどうしたらよいか？

それが「2. コミュニケーション能力を育成する手法・方法」としてまとめられています。

諸外国では、クリエイティブな活動をする実践家やアーティストが学校でワークショップ型の授業を行い、子どもたちの創造性やコミュニケーション能力等を育む機会を設けている事例が多く見られ、成果を上げている

と、海外の事例を参考にしつつ、「取り組みの効果」が続きます。

取り組みの効果

● 他者認識、自己認識の力の向上

ふだんは見ることのない他者の一面を見いだしたり、自分と異なる状況を擬似的に体験したりすることで、他者認識や自己認識の力が向上する。

● 「伝える力」の向上

相互に伝え合うことの喜びに気付き、少しでもうまく伝えたいという意欲により、表現手法が工夫され、「伝える力」が向上する。

● 自己肯定感と自信の醸成

子どもの良い面や優れた面が引き出されたり、子どもたちが互いに多面的に発見・評価したりされたりすることによって、自己肯定感と自信の醸成がなされる。

また、実施に当たっては以下の点が大事とされています。

- グループ単位（小集団）で協働して、正解のない課題に創造的・創作的に取り組む活動を中心とするワークショップ型の手法をとること
- 演劇的活動など表現手法を豊富に取り入れていること
- ワークショップの理論や手法を備えた芸術家等の外部講師が授業に参画することが大事である。

以上のことから、ロクディムの即興芝居の特徴とも共通する「他者とのコミュニケーション」や「自己表現・他者受容」などの「多様性・創造性」を実体感できるアプローチが求められており、ロクディムへの「学校公演依頼」や「特別授業・ワークショップ依頼」が増えてきたことも同様の理由によると考えられます。

※上記全て、文部科学省 Web サイト「(概要) 子どものたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～の審議経過報告のとりまとめ」より

【演劇】学校など教育現場のコミュニケーション教育・芸術表現としてロクディムの学校公演やワークショップ（インプロ）が取り入れられた理由

ロクディムの即興芝居（インプロ）の特徴は、楽しい！

ロクディムの即興芝居（公演・ワークショップ）の特徴は、なによりもまず、「楽しい」ことです。

自分を表現すること、人と接すること、伝えること、伝わること、人と一緒に何かをやること、そのこと自体に「嬉しさ」や「喜び」があり、だからこそ人は誰かと（何かと）コミュニケーションをとります。

コミュニケーションの「正解」を学ぶのではなく、コミュニケーションをあらためて捉え直しより良いコミュニケーションを「楽しみながら」体験・体感するアプローチが大きな特徴です。



また、「決まったストーリー」＝「正解」がない即興芝居（インプロ）では、自分の思うことや感じることを表現し、相手役と協力して物語を作っていくことになります。時には自分たち自身が想像もしなかったハプニングが起こることもあり、それにどう向き合い解決するか？即興でおこなう自分の表現（選択・行為）が未来をつくっていき、その結果、どんな物語ができあがるかを体験します。



芝居という架空の世界で、普段の自分とは違うキャラクターを演じたり一緒に芝居をする相手役とのやりとりから、多様な視点・価値観があることや、伝え合うこと（コミュニケーション）の楽しさ、喜びに気づいたりすることもあるかもしれません。

また、自分たち自身で物語（未来）をつくる中で、自然と想像力・創造力が発揮され、それらを他者と協働するクリエイティブな実体験も共有していきます。

正に「即興」で生きている自分の人生を、かけがえのない今という瞬間の貴重さや素晴らしさを、即興芝居を通して改めて体感するとともに、自分のありのままを表現し、相手を思いやるころを育み、互いの違いを認め合いながら、失敗を恐れず、自分らしい行き方を創造していく、そんな経験になってほしいと考えています。

主催：あうるすぽっと（公益財団法人としま未来文化財団）| 公立学校アウトリーチ コミュニケーション能力向上プログラムとして

実施先：東京都立文京高等学校「コミュニケーション能力向上プログラム」 撮影：涌井直志 | 協力：五味ウララ、永田マミ、松橋京子

【演劇】学校など教育現場のコミュニケーション教育・芸術表現としてロクディムの学校公演やワークショップ（インプロ）が取り入れられた理由

ロクディムの活動を広く知ってもらった「NHK スマイルキャラバン」の放送

このような活動の中、2014年、NHKのスマイルキャラバンに参加・出演した模様が放送されます（宮城県・岩手県）。

もともと共同主宰のカタヨセヒロシが福島県いわき市出身ということもあり、東日本大震災のあった2011年6月7月と福島県いわき市で公演をおこないます。フットワーク軽く上演した経験をもとに、日本全国を巡る公演をスタートさせつつ、福島や東北（関連含む）での活動を続けてきました。

そして2014年NHKスマイルキャラバンに参加し、宮城県・気仙沼南分館での公演、岩手県・陸前高田市立気仙中学校での公演とワークショップを実施、その模様がNHK総合で放送され、多くの問い合わせをいただきました。

学校公演が終わり図書室で帰り支度をしているところへ副校長先生が来られて「子どもたちの笑顔がもう全てです、それが一番です。何よりです。来てくれて、笑顔を届けてくれてありがとう」とおっしゃっていただいたのがとても印象に残っています。

特別な道具がなくても笑い合える。そして、笑いを一緒に作り上げることで、みなさんの心のなかにうまれる「何か」。そのことが子供たち同士のコミュニケーションを深めることにも役立ちそうですね。

—NHK 総合「明日へ 一支援あおう—」 畠山智之アナウンサーのコメントより—



【演劇】学校など教育現場のコミュニケーション教育・芸術表現としてロクディムの学校公演やワークショップ（インプロ）が取り入れられた理由

これまでの実施事例



愛知県名古屋市立楠中学校

形態：学校公演（芸術鑑賞・演劇）
 対象：全校生徒（約 750 名）
 時間：5 時限・6 時限
 内容：体験ワークショップ 20 分+公演 60 分
 会場：楠中学校体育館
 実施日：2013 年 11 月



名古屋大学

形態：公演・3回継続ワークショップ/対象：希望者
 時間：60 分/内容：公演 60 分+体験ワークショップ 105 分
 会場：名古屋大学図書館内ディスカバリスクエア
 主催：名古屋大学国際教育交流センター アドバイジング部門
 実施日：2014 年 10 月 24 日（11 月 21 日、2015 年 1 月 9 日に連続開催）



福島県郡山市立赤木小学校

形態：公演（PTA 主催イベント・演劇）
 対象：生徒～保護者
 時間：60 分
 会場：赤木小学校体育館
 実施日：2014 年 11 月



岩手県陸前高田市立気仙中学校

形態：特別授業（ワークショップ）・公演
 対象：特別授業：2年生/公演：全校生徒
 会場：気仙中学校体育館
 主催：NHK「スマイルキャラバン」
 ※実施の様子が NHK で放送されました
 実施日：2014 年 11 月

特別授業に参加した生徒の感想

「最高でした」「だんだんやっているうちに楽しくなって、結構、積極的に動けるようになりました」
 「伝え合うことの大切さとかを学べたので、自分にとっていい勉強になったと思います」

【演劇】学校など教育現場のコミュニケーション教育・芸術表現としてロクディムの学校公演やワークショップ（インプロ）が取り入れられた理由

これまでの実施事例



東京都立文京高等学校

形態：コミュニケーション能力向上プログラム
 対象：1年生 360名（3回に分けて実施）
 時間：ワークショップ 50分
 会場：文京高等学校体育館
 協力：五味ウララ、永田マミ、松橋京子
 実施日：2015年6月



大分県日田市立大山中学校

形態：特別授業（ワークショップ）・公演
 対象：全校生徒
 時間：ワークショップ：2時限・3時限（全学年）
 ：公演：6時限（約125名 内 日大山中学校 75名、大山小学校 5年6年 50名）
 会場：日田市大山公民館
 実施日：2015年8月



大分県日田市立戸山中学校

形態：特別授業（ワークショップ）・公演
 対象：全校生徒（58名）
 時間：ワークショップ：3時限・4時限（全学年）
 ：公演：5時限・6時限
 会場：戸山中学校体育館
 実施日：2015年10月

←大分合同新聞（朝刊）2015年10月31日

これまでの実施事例



岐阜県恵那市立恵那北小学校

形態：学校公演（笠置ふれ合い事業・演劇）
 対象：生徒～保護者（約 120 名）
 時間：5 時限・6 時限（13:30～15:00）
 内容：体験ワークショップ 30 分+公演 50 分
 会場：恵那北小学校体育館
 実施日：2015 年 10 月
 共催：笠置町青少年育成会 恵那北小学校 PTA

恵那北小学校 教頭先生からいただいた感想

本校のような立地条件の学校は、なかなかこうした即興劇に触れる機会やパフォーマンスを見る機会がなく、子どもたちにとっては新鮮な体験でした。「楽しかった。」という子どもたちの感想、また地域の方の反応も「すごいね。」「即興とは思えない。」というものなど、感心した様子の分かるものがたくさんありました。今日のメールにあったように、いろいろな意図があることが見ていて分かり、よく考えられているなあと思いました。また機会があればぜひ、見せていただきたいと思います。ロクディムさんと呼んだ前校長先生も評判を聞いて喜んでみえました。



名古屋情報専門学校

形態：学校祭行事 インプロ鑑賞会
 対象：専門課程全学生・高等課程 3 年生・教員・特別招待客（約 440 名）
 時間：13 時～14 時半（特別枠）
 内容：公演 90 分
 会場：名古屋情報専門学校 体育館
 実施日：2015 年 11 月



青森明の星中学高等学校

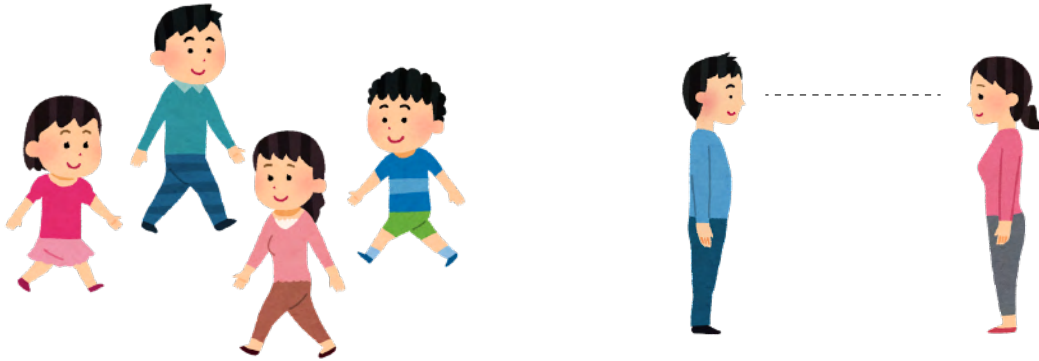
実施形態：新入生コミュニケーション研修兼高校留学事前研修
 実施対象：高校英語科1年生全員（約 27 名）
 実施時間：180 分
 実施内容：体感ワークショップ 140 分+公演 40 分
 実施会場：青森明の星中学高等学校 音楽教室
 実施日：2023 年 4 月

※その他、詳しい活動履歴は別資料「ロクディム活動履歴」をご覧ください

ワークショップのプログラム例

導入～アイスブレイク

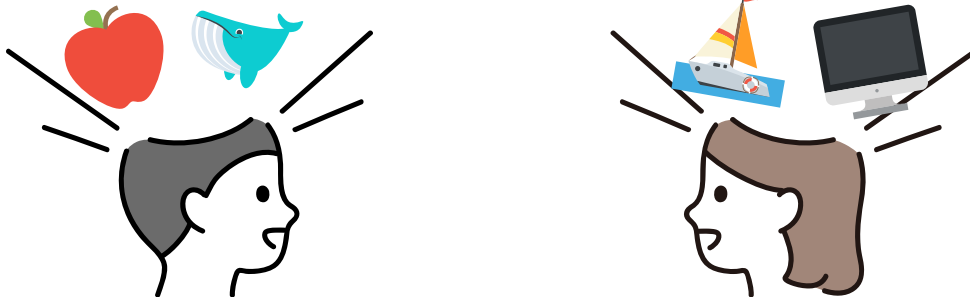
会場の中を歩いたり、アイコンタクトをとったりして、参加者同士の交流をゆるやかに促します



からだを動かすことで緊張感をほぐしたり、アイコンタクトをとることで参加者同士が安心できる空気作りをしていきます。言葉を使うコミュニケーションの前に、身体的なコミュニケーション（目を合わす、同じ動作をする等）に意識を向けていきます。

イメージする

2人～3人組で連想ゲームや発想ゲームをして、想像&創造をしていきます

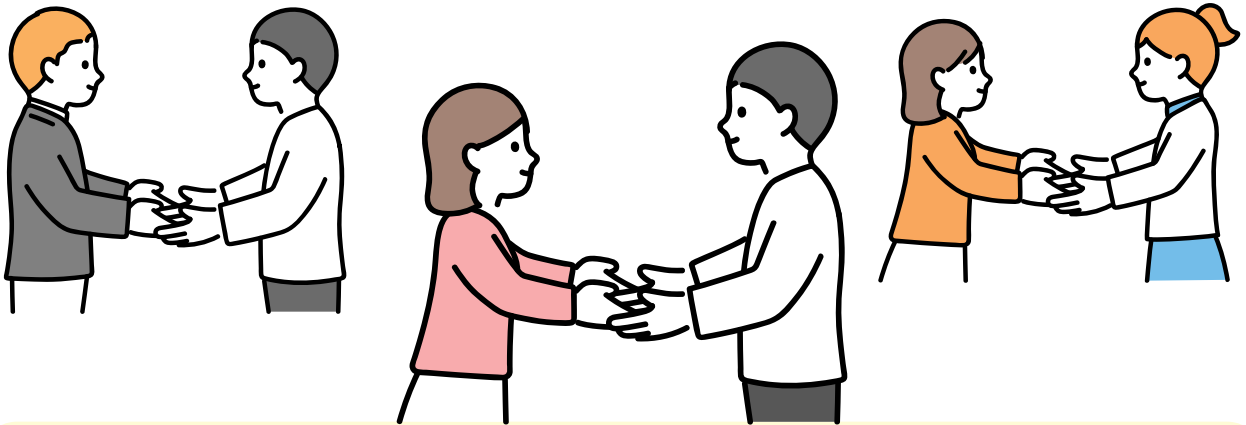


イメージを使う簡単なゲーム（連想ゲームや発想ゲーム等）をして、お互いの「イメージ」が違うことを楽しみながら体験します。例えば「かばん」から連想されるイメージは一人一人違うはずですが、それは一人一人が違う存在であり、それぞれの人生・世界を生きてきた証拠。自分と他者が違うことを実感。

ワークショップのプログラム例

即興芝居をやってみる「プレゼントゲーム」

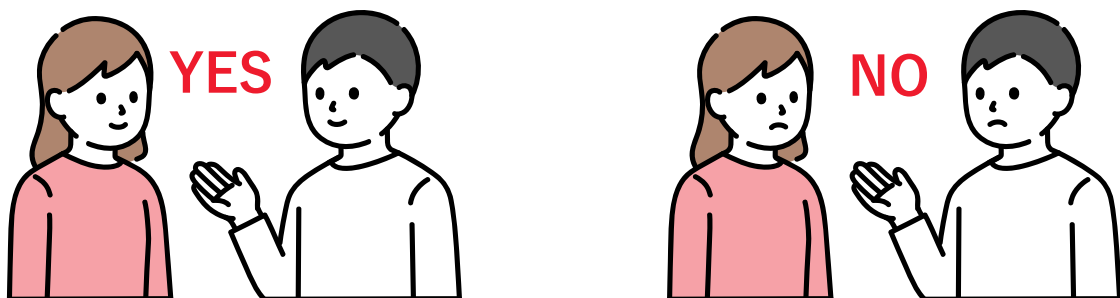
2人組になって、どちらかの誕生日という設定で、プレゼントを渡すシーンをやってみる



自分の意見・提案を相手に「伝える=オファーする」こと、相手の意見・提案を自分が「受けとる=アクセプトする」ことが基本となる即興芝居を、2人組になって「誕生日プレゼント」をもらったりあげたりしてやってみます。実物のプレゼントがないのに盛り上がる。キャッチボールするような「やりとり」を体感。

即興芝居をやってみる「否定するやりとり」「肯定するやりとり」

2人組になって、「否定するやりとり」「肯定するやりとり」という設定でやってみる



2人組のうち、1人が「物語を進める役」もう1人が「全てを否定する役」として即興芝居をします。その後、「否定する役」を「肯定する役」に変えて芝居をすると、物語はどうなるでしょうか？「否定」や「肯定」の違いを体験し、こういった違いがあるか、自分はどうしたいか、などを話し合います。

ワークショップのプログラム例

即興芝居をやってみる「社長ゲーム」

4～5人組になって、「社長役」を決めて、従業員が次々に問題を持ってくるシーンをやってみる



社長に対して従業員が様々な問題を持てますが、社長は何を言われてまず最初に「それはちょうどいいね!」とセリフを言います。自信満々に。そうすると、次に繋がる（浮かぶ）アイデアがちょっと変わってきませんか? 「自分なんで…」 「できないよ…」 と言いがちな人、自分のパターンを変えてみよう!

最後に…

「即興芝居」と「人生」の共通点

脚本がない即興芝居は「先の展開が決まっていない」ということです。

上手くできるか分からない、失敗するかもしれない、かっこ悪く見られるかもしれない…

もしかしたら、ちょっと怖いことかもしれません。

でも、自分の人生も「先の展開は決まっていない」ですよね? そうです! 人生も即興芝居も

似てるんです。だから、お芝居という「つくりもの」の中でちょっとチャレンジしませんか?

自分をもっと表現できるような、相手とより仲良くなるような、自分の望む未来をつくる「ヒント」

のようなものを、きっと体験できるはずです。

ロクディムは「即興芝居」をベースにした各種プログラムを通じて、自分を表現すること、相手とよりよく関わること、自分の望む未来をクリエイティブしていくこと、などの「気づき」を促す「機会作り」を行っています。変化の大きいこれからの時代を生きる全ての方へ、楽しみながら少しでもヒントになるように…。